

令和4年度第2回古賀市子ども・子育て会議 議事録

開催日時	令和4年7月25日（月） 14:00～16:00		
開催場所	サンコスモ古賀201研修室	公開の可否	可
事務局	保健福祉部子育て支援課	傍聴者数	なし
公開しなかった理由			
出席者	委員	森保之会長、阪木啓二委員、斎藤圭英委員、伊豆剛直委員、薄秀治委員、大住奈留美委員、柴田重法委員、角森輝美委員、田中美樹委員、梯裕子委員、神谷実枝委員、末次威生委員、牧幸子委員、石田愛美委員	
	事務局	大浦子育て支援課長、松尾参事補佐兼子育て支援係長、長野参事補佐兼保育・手当係長、岩熊子ども家庭係長、鳥飼子育て支援係員、金嶽子育て支援係員	
	その他	なし	
議題	<ul style="list-style-type: none"> ・第1回会議の議事録について ・第2期子ども・子育て支援事業計画に係る令和3年度施策の取り組みの進捗状況について ・令和5年度特定教育・保育施設の利用定員変更について ・第2期子ども・子育て支援事業計画中間見直しに係る量の見込み及び確保方策について ・第2期子ども・子育て支援事業計画における事務事業名の変更について 		
配布資料	資料1	令和4年度第1回会議の議事録	
	資料2	第2期子ども・子育て支援事業計画に係る令和3年度施策の取り組みの進捗状況	
	資料3-1	諮問書（写）	
	資料3-2	令和5年度特定教育・保育施設の利用定員の設定について	
	資料4	第2期子ども・子育て支援事業計画中間見直しにおける量の見込み及び確保方策	
	資料5	第2期子ども・子育て支援事業計画における事務事業名の変更について	

○次第

1. 開会あいさつ
 2. 会長あいさつ
 3. 令和4年度第1回会議の議事録について
 4. 第2期子ども・子育て支援事業計画に係る令和3年度施策の取り組みの進捗状況について
 5. 特定教育・保育施設の利用定員変更について
 6. 第2期子ども・子育て支援事業計画中間見直しに係る量の見込み及び確保方策について
 7. 第2期子ども・子育て支援事業計画における事務事業名の変更について
 8. その他
 9. 閉会あいさつ
-

令和4年度第2回古賀市子ども・子育て会議（会議概要）

1. 開会あいさつ
2. 会長あいさつ
3. 令和4年度第1回会議の議事録について（資料1）
特段修正意見がなく、承認される。
4. 第2期子ども・子育て支援事業計画に係る令和3年度施策の取り組みの進捗状況について（資料2）
事務局より、資料2に基づき、令和3年度施策の取り組みの進捗状況について概要説明を行う。
各委員からの意見は次のとおり。
（委員）ひかりマザーズルームの廃止理由と、廃止にともない地域での代替事業等あれば教えて欲しい。
（事務局）でんでんむしの開所、中学校区ごとに地域子育て支援拠点施設の設置をおこなったことにより廃止を決定。でんでんむしや市内3児童館・児童センターへ機能を移行し事業をおこなっている。
（委員）資料2では、工夫の内容や成果の実績が具体的にわからない。その説明は、いつしてもらえるのか。
（事務局）どの事業について不明か質問票にて提出して欲しい。
（委員）中学生職業体験学習事業について、対象が中学1年生から中学2年生に変更した理由を教えて欲しい。
（事務局）市教育委員会へ問い合わせを行い、後日回答を行う。
（会長）新たに質問がある場合は、質問票にて事務局へ提出。次回会議にて回答をもらうこととする。

5. 特定教育・保育施設の利用定員変更について（資料3）

事務局より資料3-1 諮問書を会長へ手交する。資料3-2の説明を行う。

各委員からの意見は次のとおり。

（委員）資料4の人口推計では、児童数の減少が読み取れる。今回の利用定員変更に反対するわけではないが、今後、市内私学幼稚園4園が認定こども園等に移行するときにも、平等に考えて欲しい。

（委員）資料4に基づいて、資料3-2の数字を出しているのか不明である。また、老朽化につき増改築をしたと説明があったが、建物が増築に対応出来ているのか知りたい。

（事務局）確かに、資料4の人口推計では0歳児人口の減少が読み取れるが、推計値は4月1日時点のものである。令和3年度も、4月時点では待機児童は0人だが、少しずつ増えていき3月には77名の待機児童が発生している。その為、建替え・増改築による増員の予定である。

（会長）原案どおり、承認する。

6. 第2期子ども・子育て支援事業計画中間見直しに係る量の見込み及び確保方策について（資料4）

事務局より資料4について説明を行う。

各委員からの意見は次のとおり。

（委員）児童数が減る見込みではあるが、保育施設等の利用定員を増やす理由をもう一度聞きたい。

（事務局）資料4の児童人口推計数は、4月1日のものであり、同年の3月には待機児童が77名発生していることにより利用定員を増やす予定である。

（委員）その待機児童77名は、特定の施設入所を希望している為、待機児童となっているのか。

（事務局）入所希望施設にかかわらず、どの施設にも入所できない場合に、待機児童となる。

（委員）（1）利用者支援事業の対象となるような、3歳未満の家庭保育をしている児童数はどこをみればいいのか。その数字をみて、利用者支援事業の量の見込みを判断したい。

（事務局）市では認可外保育所、企業主導型保育施設等を利用している3歳未満児の人数を把握できていないため、今の時点で、正確な人数を出すことはできない。

（委員）（5）乳児家庭全戸訪問事業から、他の事業へどのようなつなぎをおこなっているのか。

（事務局）2名体制で乳幼児家庭全戸訪問を実施し、各家庭の実情にあった事業やサービスの情報提供を行っている。でんでんむしの利用やつどいの広場、離乳食教室等の参加を促し継続して関わっている状況である。

（委員）（3）放課後児童健全育成事業について、実績が増えているのになぜ見込み数を修正しないのか。

（事務局）次回の会議にて詳細説明を行う。

（会長）（9）病児・病後児保育事業について令和3年度の利用数が特に増えている理由は。

（事務局）積極的に事業の利用案内をしていただいた成果と思われる。

（委員）（7）地域子育て支援拠点事業は大きく見込数を減らしているが、実施箇所数の減

少が理由か。

(事務局) コロナウイルス感染症によるものである。外出自粛や、施設の利用定員が設けられたこと、緊急事態制限中は児童館・児童センターが閉所していたことなどが関係している。

(委員) 今後、コロナが落ち着いて利用者が増加した場合も対応できるのか。

(事務局) 問題なく施設の利用はできる。

(委員) 今後利用者が増えた場合、地域子育て支援拠点施設の増加も考えられるのか。

(事務局) 現段階で、地域子育て支援拠点施設の増加見込みはない。

(委員) (8) 一時預かり事業の「その他」について説明をして欲しい。

(事務局) 保育園や幼稚園に在籍していない児童の利用である。

(委員) (8) 一時預かり事業の令和6年度利用見込み数は、令和3年度の実績に比べると5,000人ほど減少している。その理由は少子化か。

(事務局) 市内4つの私立幼稚園から出たデータに、児童推計値をかけて算出している。

(委員) 利用増加は、無償化が大きく関係しており、令和4年度の夏休みの預かり保育の申し込みは過去最大数である。よって、今後一時預かりの利用人数が大きく減る見込みはないと考える。

(事務局) 次回までに調査を行い、再度提出する。

(委員) (10) ファミリー・サポート・センター事業の見込みが「5人日」と変わらないのはなぜか。

(事務局) 「5人日」という表記は、一日最大利用可能数の見込みであり、今後も同様に見込んでいる。

(委員) 1日当たりの利用上限は2時間であるか。

(事務局) 1日当たりの利用時間の制限はない。しかし、「まかせて会員」と「おねがい会員」のマッチングができていることが前提である。

(委員) ニーズはあるがマッチング等により利用が難しいため、結局子どもにしわ寄せがきている。市の事業とは別に、ニーズにあった民間サービス等の情報提供が欲しい。

(会長) 「まかせて会員」の登録数の確保が今後の課題である。

(会長) 次回の会議にて、資料4の再提出と質問への回答をもらうこととする。

7. 第2期子ども・子育て支援事業計画における事務事業名の変更について(資料5)

事務局より、資料5の説明を行う。

委員より、特段質問等なし。

8. その他

次回会議は、8月24日(水)9時30分～2時間程度を予定。

9. 閉会あいさつ